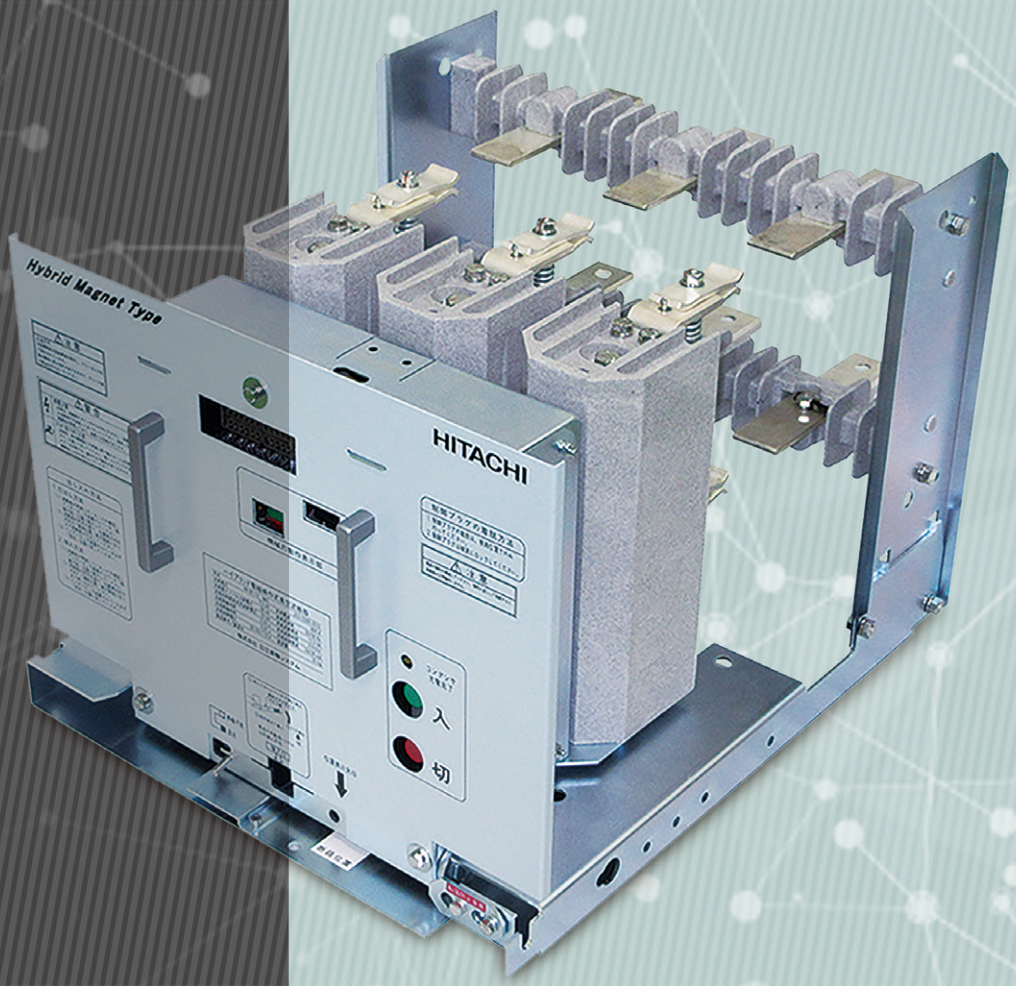
日立高圧真空遮断器
「リビルトプロダクツ」のご提案

HITACHI
Inspire the Next

Re built Products



環境調和型 VCBの新たな可能性

株式会社 日立産機システム

●こちらに掲載した内容は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

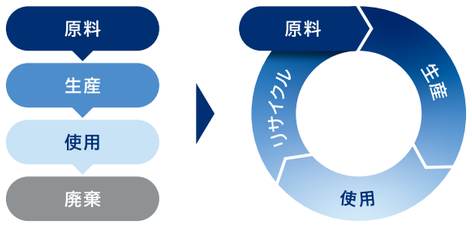
リニアエコノミーから、サーキュラー エコノミーへ。

環境負荷低減をめざす経営に新たな視点を。
真空遮断器の新たな運用のために「リビルトプロダクツ※」という
ソリューションをご提案いたします。

※リビルトプロダクツとは、使用中の製品を分解し、摩耗・劣化した部品を新品と交換して、劣化していない部品を再利用して組み立てた製品のことです。

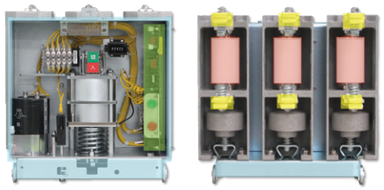
リニアエコノミーでは増え続ける環境負荷。サーキュラーエコノミーという新しい視点が求められています。

資源から価値を創造することで成長し続けてきたこれまでの経済。しかし、原料から廃棄にいたるリニア（直線的）な形態では、廃棄物や温室効果ガスは増加する一方でした。環境負荷低減に貢献する企業活動をめざすための新たな視点、それがサーキュラーエコノミー（循環型経済）です。



サーキュラーエコノミー対応型の「リビルトプロダクツ」を活用すれば、真空遮断器の効率的運用と環境負荷低減を両立できます。

このソリューションでは、真空遮断器を点検または更新する際に、本体ごと日立産機システムが提供するリビルトプロダクツへの入替えを行います。リビルトプロダクツは、新品出荷時と同等の試験を全数実施することで信頼性を確保し、筐体はメッキから塗装にすることで耐久性を向上させました。制御基板および電気的主要部品は最小限の交換で環境負担を低減させます。

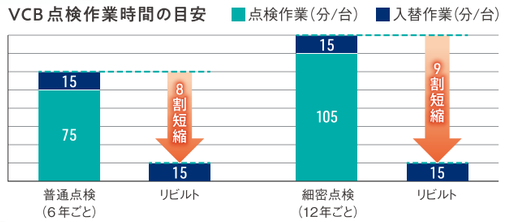


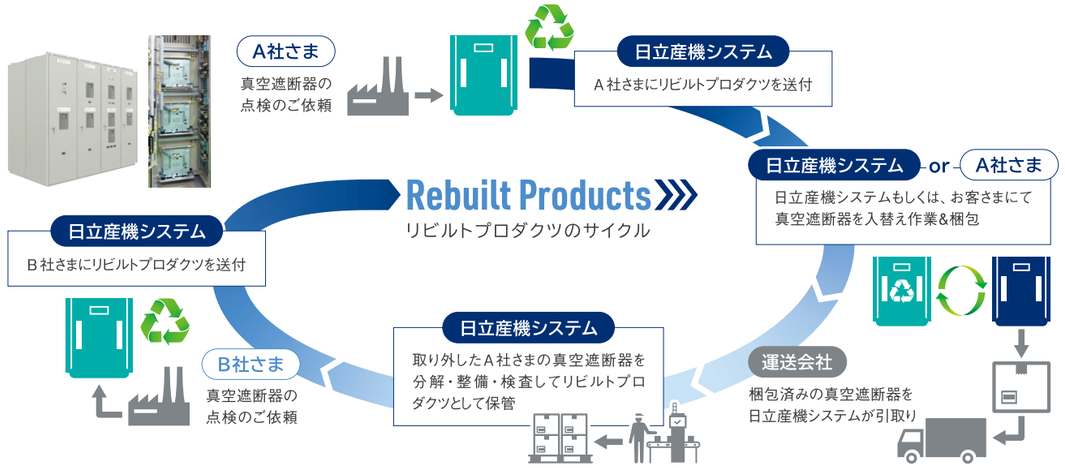
- 12年ごとに交換
- 精密検査結果にて判断
- 6年ごとに再メッキ処理
- 筐体塗装に変更

（異常がない場合の交換部品）

VCBの点検・更新。停電時間の確保が難しい。リビルトプロダクツならその問題を解決できます。

点検・更新時に既設VCBとリビルトプロダクツを入れ替えることで現地での停電時間を短縮します。VCB点検に必要な停電時間の確保が難しい場合や、台数が多く停電計画に苦労されている場合など、VCB点検時間ゼロのリビルトプロダクツへの交換により問題を解決します。



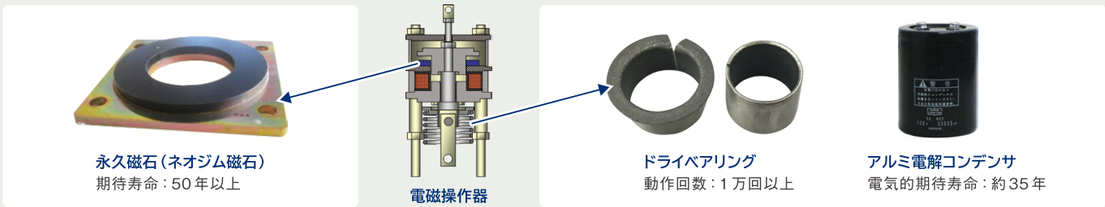


日立の真空遮断器だからこそできること。

日立の真空遮断器はハイブリッド形電磁操作式を採用しており、電動ばね操作式と比較して部品を低減しております。特に、経年変化により不具合につながる可能性があり、開閉動作により損傷を受ける操作機構部は部品点数を従来比約14%に低減しております。さらに操作機構部はグリースレス仕様として、長寿命部品を採用していることから、リビルトプロダクツとしての運用を実現しました。

リビルトを実現した長寿命部品のご紹介

グリースレス機構を構成する部品は、高い耐久性を兼ね備えております。



Rebuilt Products

「リビルトプロダクツ」の詳細はこちら

https://www.hitachi-ies.co.jp/products/cmp/rebuilt_products/index.html

「日立産機システムの環境への取り組み」の詳細はこちら

https://www.hitachi-ies.co.jp/environment/index.html

日立の環境への取り組み

環境ビジョン

日立は、ステークホルダーとの協創による社会イノベーション事業を通じて、
環境課題を解決し、生活の質の向上と持続可能な社会の両立を実現する。

日立が環境経営でめざす姿

- 脱炭素社会 気候変動の緩和・適応
- 高度循環社会 省資源・再資源化
- 自然共生社会 生態系の保全

環境長期目標

2050年・2030年を見据えた日立の決意

日立環境イノベーション2050

脱炭素社会をめざすために

バリューチェーンを通じて
2050年度
カーボンニュートラルの達成
2030年度
CO_2排出量 50%削減(2010年度比)
事業所(ファクトリー・オフィス)
2030年度
カーボンニュートラルの達成

高度循環社会をめざすために

お客さまや社会とともに
水・資源循環型社会を構築

水・資源利用効率
2050年度 50%改善
(2010年度比)

自然共生社会をめざすために

自然資本への
インパクトの
最小化

環境行動計画

長期目標を実現するために、3年ごとに環境活動項目と目標を設定

株式会社 日立産機システム

詳細はWebへ

https://www.hitachi-ies.co.jp

日立産機　お問い合わせ

SK-36 2024.5
Printed in Japan(H)